

ピックアップ ③



古代群馬の歴史を探れ！

東国文化副読本

県内の中学1年生に配布



古代の群馬がなぜ繁栄したのかや当時の暮らし、代表的な史跡などについて、写真やイラストを使用して分かりやすく解説しています。

1冊200円(税込)で販売中

販売場所などは、県ホームページでご確認ください。



中学校の授業でも大活躍



草津町立草津中学校では、古代の群馬について、東国文化副読本を資料にして調べ、各自新聞にまとめて発表する授業を行いました。

群馬が東日本最大の古墳大国となった理由や、ヤマト王権との関係の深さなどについて発表がありました。

●問い合わせ：文化振興課 027-226-2525

文化財ライブラリー

Vol.
11

峠の坂道を克服した鉄道技術

国指定重要文化財

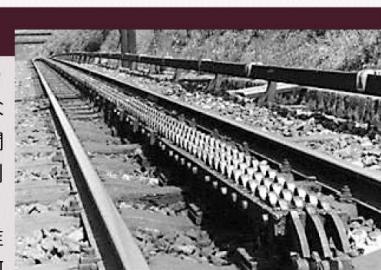
うすいとうげ 旧碓氷峠 鉄道施設

場所：安中市松井田町地内
時代：【開通】明治26年
【廃線】平成9年

旧碓氷峠鉄道施設は、群馬県の横川と長野県の軽井沢とを結んでいた、碓氷峠越えの旧信越線の鉄道施設群です。碓氷峠は交通の要所であるとともに急な坂道がある難所もあります。

この峠に鉄道が通ったのは、明治26(1893)年のことでした。急な坂道を克服するため、ドイツの山岳鉄道などで使われていたアプト(アプト)式という技術を採用し、18基の橋と26カ所のトンネルが造されました。また、強い力がレールにかかるても大丈夫なように、橋のほとんどはレンガ造のアーチ橋となっています。

橋やトンネル、変電所などの明治期から戦前にかけて残っている鉄道施設のほとんどは、国指定重要文化財です。



アプト式のレール
【写真：安中市教育委員会提供（平田一氏寄贈）】

「アプト式」って何？

アプト式とは、2本のレールの間にラックレールと呼ばれるノコギリの刃のようなギザギザのあるレールを敷き、これに機関車の歯車をかみ合わせて、急な坂道でも列車が滑らないようにする仕組みです。

一般的にはアプト式と言いますが、旧碓氷峠鉄道施設では、英語の発音に近い「阿武止(あぶと)式」と呼んでいました。

アプトの道を歩こう

アプト式鉄道時代の廃線敷を利用して、横川駅～熊ノ平駅の間は、遊歩道「アプトの道」として整備されています。紅葉がきれいな秋、見どころたくさんのお散歩道をゆっくり散策してみませんか。

アプトの道 検索



●問い合わせ：文化財保護課 027-226-4684